

平成26年10月14日

第4回愛西市小中学校適正規模等検討委員会 会議録

署名者

委員 \_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_

## 第4回愛西市小中学校適正規模等検討委員会 会議録

開会日時 平成26年 10月14日(火) 午前10時00分  
閉会日時 平成26年 10月14日(火) 午前11時30分  
場 所 愛西市役所八開庁舎 第4会議室

■ 出席委員

委員長	伊藤勝康
副委員長	佐藤重樹
委員	伊藤千恵
委員	鬼頭朋子
委員	杉山礼子
委員	佐藤有見子

■ 欠席委員

委員	平晋一郎
委員	伊藤正憲

■ 事務局

教育長	加藤良邦
教育部長	五島直和
教育部次長	高山典彦
学校教育課長	佐藤信男
課長補佐	鈴木一代
課長補佐	近藤幸敏
主事	市橋美紗希

■ 傍聴者 なし

1 開会

2 前会会議録の承認

3 議題

- (1) 適正規模及び配置の適正化に係る具体的な方策について
- (2) 次回会議の日程及び議題について
- (3) その他

3 閉会

<p>【事務局】</p>	<p>皆さん、おはようございます。それでは第4回愛西市小中学校適正規模等検討委員会を開催いたします。</p> <p>平委員及び伊藤（正）委員につきましては、欠席のご連絡がありましたのでご報告いたします。なお、前回の会議録につきまして、署名を頂きましたのでご報告いたします。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>それでは、前回の会議でご質問がありました内容について、説明をさせていただきます。</p> <p>クラス数に関して、前回の会議において、市である程度決めることができる。そのような内容の説明を致しました。</p> <p>そちらの具体的な資料として、第1回愛西市小中学校適正規模等検討委員会の資料にあります、学校規模についての法令上の定義。こちらへ、旧文部省助成課資料を追加致します。この資料は国の学級数の基準を示した資料です。</p> <p>次に、クラスの中の人数の関係についてですが、国が人数を示している資料はありませんでした。ただし、先進地では20人前後で決定している市町があります。</p> <p>次に、小中一貫の関係の資料ということで、飛島村の小中一貫教育の資料がありますので、説明を致します。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>飛島村小中一貫教育説明資料について。</p> <p>平成26年4月10日現在の飛島村立小中一貫教育校飛島学園飛島小学校の児童数は男女あわせて260名です。5・6年生は1クラス、1年生から4年生は2クラス、特別支援学級は2。</p> <p>中学校の児童数は男女あわせて114名。7年生は1クラス、8・9年生は2クラス、特別支援学級は1。</p> <p>飛島村の小中学校が抱えていた課題について説明をします。</p> <p>飛島村では、小・中学校が各1校にも関わらず、いまひとつ十分な連携がとれていない。</p> <p>小・中学校9年間ほとんど同じ仲間との生活であるため、学力の向上、個性や能力の伸長という面では十分な成果が得られていない。</p> <p>小学校と中学校の指導体制や指導方法の違いに対応できない児童もいる。（中1ギャップ問題）</p> <p>中学校2年生全員を対象とした海外派遣研修事業を行っているが、生徒の英会話能力が十分育っていないという現状が見られ、これからの国際社会に対応するためには、更なる実践的なコミュニケーション能力の育成や国際感覚の醸成が求められている。</p>

	<p>また、小学校校舎は耐力度調査の結果、危険校舎と判定されたことで、早急な改築が必要である。</p> <p>これらの課題解消のため、小中一貫教育校建設を決定しました。</p> <p>飛島村の小中一貫教育の内容について説明します。</p> <p>小中一貫教育として、児童生徒の知識、道徳、健康の健全育成と全体的な学力向上を図るための教育環境づくりをめざす。</p> <p>また、小中学校の教員が一体となり、小・中学校の9年間を一貫した教育理念に基づいて指導を進め、子どもたちの個性、能力をさらにのばす。</p> <p>小・中学校が同一敷地で、防犯対策等の整った、安心で安全な環境のもと、きめ細やかな充実した教育ができるような環境整備を進める。</p> <p>飛島村の活性化を図るとともに、本村出身であることを誇りとし、社会の発展に貢献できる若者を育てることを目標とする。</p> <p>小・中学校9年間を見通した系統的・計画的な教育活動を展開するため、「発達段階を考慮した指導」を中心とし、「基礎学力の充実・発展」「英語教育の充実」などの5つを柱とし、創意工夫による特色ある教育課程を編成し実施する。</p> <p>次に、初等部・中等部・高等部の区分について説明をします。</p> <p>初等部は小1から小4まで、基礎・基本期。中等部は小5から中1まで、充実期。高等部は中2から中3まで、発展期。といった区分になっています。</p> <p>小・中学校の主な実践内容として、基礎学力の充実・発展、豊かな心の醸成、英語教育の充実、地域学習・キャリア教育の充実、健やかな体づくりに取り組んでいます。</p> <p>飛島学園施設配置の特徴として、学年間のきずなと豊かな心の育成。(異学年交流の充実) ランチルームの機能を備えたふれあいホールを校舎の中心に配置し、全学年そろって給食を食べたり、学校全体での集会に利用したりするなど、学年を越えた活発な異学年交流を図ることができる。</p> <p>ひとりひとりを大切にしたい、きめ細かな学習環境。(学年ユニットを生かした学習指導の充実) 2クラス分を確保した学年ユニットをいかして、小・中学校で導入されている T・T。(ティーム・ティーチング) では少人数指導を充実させ、個に応じたきめ細かな学習形態を容易に生み出すことが可能となる。</p> <p>学年ユニットには、新校舎建設により減少する既存の特別教室(生活科室: 小学校2室、総合室: 中学校3室)に代わる機能も持たせた。したがって、学年ユニットのワークスペースは、学年間交流や各学年のさ</p>
--	---

	<p>まざまな教育活動にとって必要不可欠なスペースとなった。</p> <p>安全面の配慮を十分考えた運動環境。(伸び伸びと心身ともに成長できる環境の充実) 学年ユニットに十分なゆとりを持たせることにより、開放的な雰囲気の中で、伸び伸びと休み時間を過ごすことができ、ひとりひとりの心が健やかに育つ。</p> <p>教室から簡単にアクセス可能な低学年用の中庭や、生き生きと活動できる遊具を配した広い低学年広場を設けた。また、グラウンドはサッカー・野球・ソフトボールが、周りを気にせず十分活動できる広さが確保されている。健康・安全面に配慮し、伸び伸びと心身ともに成長する子どもたちが育つ。</p> <p>10年先、20年先を見すえた学年ユニットの設定について。</p> <p>平成22年8月文部科学省より、「新・公立義務教育諸学校教職員定数改善計画(案)」が発表された。計画には、(1)小学校全学年で35人学級を実現(平成23年度～27年度の5ヶ月)、(2)中学校全校生徒で35人学級を実現(平成26年～28年の3ヶ月)(3)小学校1・2年生で30人学級を実現(平成29年度、30年度の2ヶ月)が盛り込まれている。</p> <p>各学年が40人前後の飛島村の実態では、今後、1学年あたりの学級数が2クラス規模になることが予想される。このように国レベルの教育改革によって、クラス数が増加した場合にも即座に対応できる構造となっている。</p> <p>以上が飛島村、小中一貫教育資料の説明です。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>次に、こちらも小中一貫教育の参考資料として、中央教育審議会初等部中等教育分科会、小中連携一貫教育に関する主な意見等。</p> <p>この資料につきましては、愛西市にも関係があると思われる箇所を抜粋したものになります。</p> <p>以上が前回の会議でありました、質問の回答です。</p> <p>それでは、委員長に会議の進行をお願いします。</p> <p><b>【委員長】</b></p> <p>皆さん、おはようございます。</p> <p>それでは、適正な学校規模及び配置の適正化に係る具体的な方策について、基本的にどのように考えれば良いか。</p> <p>今までにおいても過小規模校、また、小規模校について、学級数の推移を見ながら統廃合、通学区域、通学方法について検討を進めていく必要がある。</p> <p>また、もしも、今後において、過大規模校となった場合について、こ</p>
--	--

ちらも、児童数、学級数、通学区域の編成について、考えていく必要性があります。

次に、愛西市としての、適正基準を検討していきたいと思えます。

先ほど事務局から説明がありました、旧文部科学省助成課の追加資料に過小規模、小規模、適正規模、統合の場合の適正規模、大規模、過大規模の学級数があります。これを参考に、意見をお願いしたいと思えます。

資料について、簡単に説明をしますと、国の適正規模の基準は12～18学級。小学校であると1学年2～3学級、中学校であると4～6学級が適正とあります。

愛西市の今後を考えるにあたって、第2回の会議資料に6年先の学級を示したものがあります。

平成32年の学級数を見ますと、小学校では過小規模校として、福原分校。小規模校として市江小学校、立田北部小学校、立田南部小学校、八輪小学校、開治小学校。適正規模であるのは佐屋小学校、永和小学校、北河田小学校とあります。

中学校につきましては、過小規模校として八開中学校。適正規模校は佐屋中学校だけで、残りの4校は小規模校となっています。

したがって、検討会の中でもこの問題を解決する必要があるとおもいます。

そこで、愛西市の適正基準に許容範囲を設けて考えてみてはどうか、という事で先回も話をしました。

普通学級について、国の基準とほぼ似たようなかたちになると思えますが、許容の下限として、小学校では、1学年1クラス。中学校では、1学年に2学級。小・中学校ともに、6学級という考えではどうか。

次に許容の上限について考えてみますと、小学校では、1学年4クラス、全校で24学級。中学校では、1学年3クラス、全校で18学級という考えではどうか。

クラス数だけではなかなか判定が難しいということがありますので、1クラスの人数の目安を持ってはどうか。

小学校では、1学年で1クラス20人程度、全校で120人程度ではどうか。

中学校では、1学年2学級で、クラス替えがあったほうがいいのかという思いから、1学年に40人程度で2学級。全校で130人程度になればいいのかと思えます。

ただし、愛西市では適正基準に入らない学校でも創意工夫をしながら学校づくりがされていますので、適正基準に入らないから不適正だと考

	<p>えないよう進めたいと思います。</p> <p>まず、ここまでのところで検討をしたいと思います。ご意見がありましたら、お願いします。</p> <p>【委員】</p> <p>国の基準で考えると、校区が広範囲になってしまうと思います。特に、小学生の通学の事を考えると、ある程度の線引きが必要だと思います。</p> <p>それぞれの学校が地域に根ざしていますので、できるのであれば、愛西市独自の基準を定める方法がいいのではと思います。</p> <p>【委員長】</p> <p>ありがとうございます。他に意見はありますか。</p> <p>【委員】</p> <p>それぞれの地域でそれぞれの学校づくりをして頂いています。その地域性を残して貰いたいとは思いますが、そればかりではいけない状況が出てきていると感じます。とても難しい問題だと思いますが、市独自の基準について、考えながら進めていければと思います。</p> <p>【委員長】</p> <p>ありがとうございます。それでは、他に意見はありますか。</p> <p>【委員】</p> <p>適正基準のとらえ方の表を見て、適正規模校の学級数が12～18というのは納得できますが、過小規模校の基準として、これは何とかしたいと思える数となると、小学校の1～5はそうだと思います。しかし中学校の過小規模校は1～2学級、小規模校は3～11学級でもいいのではないかと思います。</p> <p>人数が多すぎて施設に入りきらないとなれば、過大規模が31学級～というのも納得できます。人数が多すぎる場合は分離するよう考えていかななくてはと思います。</p> <p>過小規模校としては学年が抜けてしまうのはいけないと思います。そう考えると、現・児童生徒数の目安は小学校、中学校共に、下限は1学級ではないか、と思います。</p> <p>【委員長】</p> <p>過小規模は1～2学級、小規模は3～11学級、ということですね。具体的に八開中学校が4学級になると推計にでていますが、この基準で考えると、過小規模校ではなく、小規模校となります。</p> <p>国の基準では学級数が多いのではないかとということですね。</p> <p>【委員】</p> <p>小学校の過小規模校が1～5学級なので、比較をすれば、中学校の学級数としては1～2学級が妥当ではないかと思います。</p>
--	--

	<p>中学校には3学級で学校経営をしているところも多くあるので、3学級あれば準適正になるのではないかと思います。</p> <p>【委員長】 今の子供たちの数の推移と学級数を見ますと、32年度に八開中学校が4学級となります。しかし、先程の基準で考えますと、過小規模ではなく、小規模校ではないか。という意味でしょうか。</p> <p>【委員】 過小規模校の中に入れてしまうと、緊急性があるように思う。中学校で4クラスであれば、急いで対応をすることは無いのではという思いがあります。</p> <p>【委員】 ありがとうございます。他にご意見はありませんか。 国の基準のように進めればいいのではないか。もしくは、愛西市独自の基準を持たせた方がいいのではないか。そのようなことを考えていきたいと思います。</p> <p>【事務局】 たとえば、中学校の学級数が3でいいとすれば、極端な話で言いますと、各学年10人ずつ、全校生徒で30人。ということもあるかもしれませんが。そうすると、学校全員の人数として、ある程度的人数が必要という基準が必要になると思います。</p> <p>【委員長】 いろいろな角度からみて、ある程度、妥当だと思われる基準を決められたらいいと思います。</p> <p>【事務局】 この先、過小規模校へ一時的に入ることもあるかもしれません。先の事ははっきりとしていませんが、学級数だけでは、制限をかけるのが難しいと思います。</p> <p>【委員長】 ありがとうございます。 飛島村の資料にもありますが、文科省の方針が順調に進んでいけば、学級数というのは、変わってくると思います。従って、学級数だけで考えず、児童数についても一緒に考えていきたいと思います。 普通学級数につきまして、ひとまずは、国の基準を参考にしながら、進めていきたいと思います。 次に、適正化を図る方法と課題について、意見をお願いしたいと思います。 今までの会議の中で、今後の事を考えれば、統廃合、小中一貫にする</p>
--	--

	<p>べきか、地域の人達の歴史や思いも踏まえて、慎重に進めてはどうか。そのような意見がありました。</p> <p>第1回の会議資料、学校別児童生徒数の資料を見ていただきますと、小学校の平成32年の推移の表では、福原分校は9人、八輪小学校は92人、開治小学校は68人。このように、下限の目安を大幅に下回る学校がでできます。</p> <p>中学校では、こちらは大幅ではない気もしますが、八開中学校が111人。そういった推計になっています。</p> <p>続きまして、学校別新入学児童生徒数の推移についての資料。</p> <p>平成32年度の推計を見ますと小学校の新入生について、福原分校は0人。八輪小学校は14人。開治小学校は8人。</p> <p>中学校では、八開中学校が41人。こういった推移になっています。</p> <p>このような資料を見ながら、福原分校の過小規模校としての問題。八輪小・開治小の統廃合について、話し合いを進める必要があるだろう。</p> <p>また、小中一貫校として、たとえば、小中学校の施設はそのまま、同じ教育目標を持って、小中9年間を通したカリキュラムを組み、小・中学校の先生方の交流を盛んに行い、小中学校を行き来しながら、小・中学生両方の生徒の授業を受け持つ。そのような施設分離型の小中一貫教育というのは実際に行っている学校があるようです。</p> <p>いずれにしても、小中一貫教育として適正化を図っていく必要があるのではないか。</p> <p>通学区域につきましても、通学の距離、時間の問題があります。また、大規模校になった場合の分離や新設もあるかもしれません。その他にも問題がある場合もあります。それらについて、話し合いをしたいと思えます。</p> <p>人数が少なくなってくると、子ども達同士のコミュニケーションも少なくなります。そういったことを考えると、小中一貫校として、異学年同士の交流ができればいいと思います。</p> <p>私としては施設をひとつにした小中一貫校、という思いがあります。しかし、難しい問題も多々あると思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>例えば、子ども達の数や学級数をみますと、数が少ない八輪小、開治小と一緒にすることも考え方としては可能であると思えます。</p> <p>小中一貫教育の説明を聞いてみて、内容としては、いままでの小・中</p>
【委員】	
【委員長】	
【委員】	

	<p>学校の学校運営と変わらないのではないかと思います。</p> <p>飛島村につきましては、同じ敷地内ということで、異学年との交流はしやすいのではないかと思います。また、中学生になったとき、小学生の頃はどんな生活をしてきたのだろうか、どんな学習を小学校から進めてきたかなど、職員同士で情報を共有できる。そんなメリットはあると思いますが、その他については、現状とあまり変わらないのではないかと思います。</p> <p>小学校同士の交流はあまり進んでいないかもしれませんが、人数の少ない、八開地区や立田地区の小学校はそのようなことも考えながら、一緒に行事や、遠足にいたりするなどの取り組みも行っています。</p> <p>まったく一緒ではありませんが、現状の学校運営として、それに近い努力はしていると思います。</p>
【委員長】	<p>ありがとうございます。他に意見はありますか。</p>
【委員】	<p>統合するのはいいと思うのですが、難しい問題があると思います。</p> <p>理想としては、たとえば八輪小の場合ですと、八開中学校で開治小の子達と一緒に通うことになります。早いうちから一緒の方がいいのではという気持ちがあるので、小学校の頃から一緒であれば、部活や、部活外の活動でも、その方がいいのではという気持ちがあります。</p>
【委員長】	<p>ありがとうございます。他に意見はありますかでしょうか。</p>
【委員】	<p>八輪小学校と開治小学校が合併したとして、端から端の子ども達がどうやって通えばいいかという問題があります。メリットとして、小学校からずっと同じ教育を受けてれば、仲間意識はできると思います。しかし、ずっと小学校から中学校まで同じといった、新しい出会いがない環境の中で仲違いがあると修正するのが難しいのではという思いがあります。</p>
【委員長】	<p>ありがとうございます。実際に、飛島村の小中一貫校では一貫校にしたメリットはもちろん、問題点や解決すべき課題もあります。そういったことも参考にしながら、小さいクラス数、人数としても、適正規模に近づく手が打てればいいと思います。</p> <p>そのためには小中一貫校も考えていかななくてはならない。そんなふうに思います。</p> <p>それでは、適正規模に向けた取り組みの留意点について。例ではあり</p>

	<p>ますが、保護者の皆さん、地域の皆さんに理解をしていただくための取り組みが必要である。また、教育行政も変わってきますので、こちらの方にも目を向けていかななくてはならない。そういったことでなにか意見がありましたら、お願いします。</p> <p>【委員】</p> <p>教育行政のことで、5歳児の義務教育化といった話し合いが行われているようです。新聞記事で見たのですが、子どもの能力が2歳早く育っているとありました。確かに知識面では、今は情報が溢れていますので、そうだなと感じます。一方で、社会性やコミュニケーション能力といった人間関係の面では年々幼くなっているように感じています。</p> <p>そういったことを思うと少子化の問題や、核家族化の問題や、地域のコミュニティが減っていることも、一因なのではないかと思います。</p> <p>なので、ある程度の学校規模にすると意図的に社会性を育てられるのはいいなと思います。子どもたちの育ちを一番において、それを育てるために、大人はなにができるだろうという論点から、今まで築きあげてきたものも大切にしつつ、新しいものを築きあげていく方向で、大変だと思いますが、子どもの育ちというのを一番に考えていく方向で、進めていけたらと思います。</p> <p>【委員長】</p> <p>ありがとうございます。それでは今後に向けて、委員おひとりずつ意見または感想を頂きたいと思います。</p> <p>【委員】</p> <p>最終的に子どもたちがどんなふうに育っていくかを考えていき、それに向けての諸問題が沢山あるなと思いました。</p> <p>【委員】</p> <p>こうやって会を進めてきて、愛西市の周りの市町でも統廃合を行った学校の話は聞いていましたが、統廃合を行った他の市町がその後どうなったのか、そのようなことが聞いてみたいと思いました。</p> <p>【委員】</p> <p>子ども達にとってプラスになるように進めていけたらいいなと思います。難しいこと、大変なことだと思いますが、そういった希望はあります。</p> <p>【委員】</p> <p>子どもにとって、コミュニケーションが取れたり、話し合ったりできることが大事だと思いますので、そういった面が改善できるよう、小中一貫学校や通学路の改善を考えていきたいという思いがあります。</p>
--	---

<p>【委員長】</p>	<p>ありがとうございました。またご意見などありましたら、次回、お話しして頂けたらと思います。</p>
<p>【教育長】</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>具体的な動きを考え出せば、課題や問題は沢山出てくると思います。今の段階で、子ども達にとってどうすることが一番良いのか、どういった状況が良いのか、ということを中心に今後も考えていけたらと思います。今回の会で一旦、今年度のまとめに入りますが、それによってただちに具体的な動きに入ることはありませんので、次年度以降に引き続いて検討はしていくことになると思います。先になればなるほど、具体的な条件を入れながらの検討になると思いますが、是非、子ども達のより良い環境について、話し合えればありがたいと思います。</p> <p>非常に難しい話で、十分時間も取れないこと、大変申し訳ないと思いますが、これからもよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>本日は検討ありがとうございました。</p> <p>次回は11月18日（火）午前10時から開催</p>